

明治32年（1899年）に商法が施行されてから、すでに100年以上が経過しました。この変革の時代、わが国の商法は大きな曲がり角にきています。

商法改正の動きは、平成に入ってから急激に活発になりました。このところ毎年のように商法改正があり、しかも1年の間に何回も行われています。中でも平成13年から14年にかけて行われた改正は、内容としても商法の全面的とも言える大改正でした。

もつとも、その器うつわ自体は、従前のものをそのまま使っています。そのため、条文の並び方は従前通りであり、カタカナ、句読点省略の文語調は依然として変わっていません。商法の現代語化・口語化は、これからです。

ただ、新しい商法の内容については、一応ほぼ出そろったと見てよいでしょう。これが21世紀におけるわが国の会社法制のベースになることとなります。

すでに、商法改正の動きに呼応して多くの書物が発刊されており、中には商法改正の実現を先取りして全貌を紹介するものまで現れています。

本書は、今回の改正がとりあえず一段落したところを踏まえて、その概要と主要な改正の内容について図解を使いながらわかりやすく解説しようとするものです。すなわち、ここ数年の主だった商法

改正を総整理し、今回の商法改正を有機的に理解できるようにまとめたのが本書なのです。

守備範囲としては、平成12年から平成14年にかけての改正をメインとしながら、近年の重要な改正には適宜言及しました。

各年の改正については、その部分だけを見てわかりにくい点もありますので、従前の改正の経緯にも言及しながら、平成に入ってから商法改正の全貌がわかるように工夫しました。

まだまだ未解明のところも少なくありませんが、全体像を把握するための入門書として本書をご利用いただければ幸いです。

平成14年7月吉日

浜辺陽一郎